

第119回 幻住庵俳句コンクール

番号	句	住所・氏名
75	藤緑の寝れしベンテ下萌ゆる	大津市石山寺三 小野 寛
74	山城の滅びし跡や下萌ゆる	大津市石山寺三 小野 寛
73	網走の古き駅舎の草萌えて	大津市石山寺三 小野 寛
72	啓堂や土管口にはいたちの目	大津市光が丘一 大槻 幸恵
71	鳥たちの社交場梅花散らしけり	大津市光が丘一 大槻 幸恵
70	花ミモザ二階の人に笑釈して 笑釈	大津市光が丘一 大槻 幸恵
69	心配も吹っ飛ばびわ湖雪解水	大津市光が丘一 大槻 幸恵
68	春時雨迎えの傘をことわって	大津市光が丘一 大槻 幸恵
67	立春や賑わっており艇庫前	大津市光が丘一 大槻 幸恵
66	目合わぬもすぐ逃げた鏡鏡メジロか	宇治市小倉町 伊豆 益一
65	コロナ過でアイドル歌手や花盛り	宇治市小倉町 伊豆 益一
64	花万葉別れと出会い新々うつつ	宇治市小倉町 伊豆 益一
63	散る探隊した我が身を妻あんず	宇治市小倉町 伊豆 益一
62	卒業日友と別れやポスト横	宇治市小倉町 伊豆 益一
61	桜咲く鴨川べりによゝいやささ	宇治市小倉町 伊豆 益一
60	夏暖簾カーテン裏の影絵かな	宇治市小倉町 伊豆 益一
59	花水木咲き新しき町内会	宇治市小倉町 伊豆 益一
58	鯛の敷居に坐りつれあいと	宇治市小倉町 伊豆 益一
57	院様住職法話居眠りて	宇治市小倉町 伊豆 益一
56	山門の朽ちし阿吽や冬深む	大津市田辺町 山田 和義
55	月光に白き山茶花降る如し	大津市田辺町 山田 和義
54	新年や揺る胸の己が覇気	大津市田辺町 山田 和義
53	久しくも笑ふ進影や年の暮	大津市田辺町 山田 和義
52	元日の祝ふ間なしの大地震	大津市田辺町 山田 和義
51	旅の果て絶えぬ瀬音や枯木立	大津市田辺町 山田 和義

第119回 幻住庵俳句コンクール

番号	句	住所・氏名
100	花咲しや光の中の道祖神	大津市柳川一 丸岡 正男
99	トタン屋根そりそりそりと猫の産	大津市柳川一 丸岡 正男
98	星日のうすうす光り山笑ふ	大津市柳川一 丸岡 正男
97	ぶらんこを漕いでこの世を謳歌す	大津市柳川一 丸岡 正男
96	堤防や湖につながる花の帯	大津市柳川一 丸岡 正男
95	雲や園分の山のとこころに	大津市柳川一 丸岡 正男
94	春燈の庵に整う桜餅	大津市柳川一 丸岡 正男
93	眼の合いて金魚と話す暮しかな	大津市柳川一 丸岡 正男
92	春光や立て看板の花ことば	大津市稲津三 加集 正尊
91	見舞ひ来し妻の装ひ春めける	大津市稲津三 加集 正尊
90	玉筋魚炊く匂ひ漂ふ家並かな	大津市稲津三 加集 正尊
89	早春や扉重たき尼僧院	大津市稲津三 加集 正尊
88	鈍色の湖上の帳別れ雪	大津市稲津三 加集 正尊
87	春寒やバスを待つ間のパチンコ台	大津市稲津三 加集 正尊
86	遊山箱おき同志の花筵	大津市稲津三 加集 正尊
85	目覚しを止めて一寝の春の夢	大津市稲津三 加集 正尊
84	夜桜や場所とり競う昼休み	大津市稲津三 加集 正尊
83	一年生渡るバス道真放蕩る	大津市稲津三 加集 正尊
82	赤ん坊の大きな欠伸春を待つ	大津市柳川一 圓井 公子
81	茶話会や春慶に盛るひなあられ	大津市柳川一 圓井 公子
80	庭先に雀の声や春障子	大津市柳川一 圓井 公子
79	鯉梅や日当る順にこぼれ咲き	大津市柳川一 圓井 公子
78	福の豆受け止めやすき帽子かな	大津市柳川一 圓井 公子
77	ブルーシート屋根に居座る寒さか	大津市柳川一 圓井 公子
76	放牧の北の大地に草萌えて	大津市石山寺三 小野 寛